



地域なんでも情報局

城山スクール子ども食堂 城山地区

城山小学校放課後子ども教室 城山スクール（以下、「城山スクール」という。）は、月に2回『子ども食堂』を開催しています。この活動が始まったのは、平成30年2月。10名前後の子ども達と数名の保護者が参加しています。子ども食堂代表の池田美保さんは「子どもを取り巻く環境の変化が起きている中で、自分で作ってしっかりと食べるこ



盛り付け



料理中



完成



片付け



多くの子ども食堂は、大人が作った料理を低額で子ども達に提供しますが、城山スクールの子ども食堂は一味違います。調理師専門学校先生をお招きし、保護者のサポートを受けながら子ども達が自らの手で作るのです。「どうやって切るの?」「もう火止めていい?」様々な疑問を抱きながら子ども達は元気に活動しています。更に、献立は先にメニューを決めて買出しに行くのではなく、今ある食材からスタッフと専門学校の先生が話し合い決めます。当日までどんな料理を作るか分からないというワクワク感も城山スクールの魅力です。

取材で訪れた日のメニューには、苦手な子が多い茄子が含まれていました。調理前に「茄子きらい!」と言っていた子どももあつという間に完食。「自らの手で作ったからこそ食べるこ」とができたのだろう。」とスタッフの方は話します。ただ食べるだけではなく、「食に触れる大切さ」を伝える子ども食堂。大人のサポートがあつてこそこの活動です。「自分で料理を作る子どもを育てたい」主催者の方々のそんな熱い思いが詰まった子ども食堂をこれからも応援していきたいと思えます。

(佐々野 由佳)



はるみサロン

毎週金曜日開催中

今日は輪投げ!

3月に佐世保市春日校区社協からのサロン見学もありました☆

晴海台地区では、今年度から『ささえあいネットワーク』を発足させ、地域の中の見守り体制の強化に取り組んでいます。「きつかけは、晴海台で起こった孤独死や数日間自宅で倒れていた高齢者を発見したこと。高齢者が安心して暮らせる体制づくりの必要性を感じた。」と話すのは代表の小柳副支部長。

晴海台地区では、以前から、自治会や民生委員、老人クラブ（むつみ会）などが協力し、ふれあいセンターで週1回開催している高齢者ふれあいサロン『はるみサロン』や月1回の『食事サービス』などを通して、地域の高齢者の居場所づく

りを行っています。今回のささえあいネットワークでは、日頃なかなか外に出て来られない「気になる方」を対象に、今まで民生委員やむつみ会が個別で行っていた見守り活動にボランティアによる見守りの目を増やし、網目（ネット）の体制で変化に気づきやすくする取り組みです。

第1回目の定例会議で西岡支部長からは「見守りの形にとらわれず、対象者の方と途切れない接し方を気がかけてほしい。」との言葉が聞かれました。見守りの「目」を増やし、日頃の何気ない気づきが住民の皆さんの安心感に繋がればと思います。

(末竹 このみ)



協力して見守ります
ささえあいネットワーク
見守りボランティアのみなさん

晴海台ささえあいのネットワーク

高城台地区情報交換会



情報交換会の様子！

高城台地区では、社協高城台支部主催のもと、3ヶ月に1回、地区内の関係団体の代表者が集まって『高城台地区情報交換会』（以下「情報交換会」という。）を実施しています。この情報交換会は、社協支部、自治会、民生委員、老人会、育成協、PTA等、地縁団体の他、福祉施設や地域包括支援センター、学校関係者など地区の専門機関も参加して、約20団体で構成されています。

する時に、参加の協力を呼びかけたり、地域で物づくりをする行事の時に材料提供のお願いをするなど、単独の団体で活動をするよりも関係団体の協力を得ることによって、より広い範囲で連携することができ、それに伴って活動できる内容も広がっています。

高城台地区では、情報交換会を4年前から始めましたが、当初は、関係団体の理解が得られなかったり、「どうやって協力していいかわからない！」といった声も聞かれました。しかし、情報交換会を重ねるにつれて、だんだんとその必要性を理解し、関係団体の絆も深まっていきましました。今では情報交換会のメンバーで年1回、懇親会を開いて更に絆を深め、地域を活性化しようとして活動されています。

地域活動の担い手不足や活動の衰退化が懸念されている昨今、この情報交換会が、地域活動活性化の糸口となるよう、高城台地区では今年度も協力して情報交換会を開催していきます。（富永 敦志）

たすけあいの輪を広げる「たすけあいマップ」づくり

4月29日（日）西城山校区西部自治会では和やかな雰囲気の中、『たすけあいマップ』づくりが行われました。ささえあいマップづくりでは、高齢者や障がい者など、災害時に自力で避難することが困難な要支援者や、要支援者を支援する支援者の情報を、地域住民同士で話し合いながら地図上に記載していく作業を行います。



地区ごとに分かれてマップづくりを行いました

「ここは高齢のご夫婦だから心配よね。」「そこは親子でお住まいだけど、お母さんは足が悪くて日中はいつも一人みたいだから気になっていたんだよ。」と近所の方を気にかける声が次々に上がり、地図はたくさんの方の情報が埋めつくされました。

近年、近所付き合いや地



心配ごとなどをみんなで出しました

域のつながりの希薄化が進み、住民間での親しい付き合いや、家族や地域で互いに支え合う機能が失われているといわれています。

しかし、今回のマップづくりを通して、地域の方々の「地域全体でも助け合い、ともに支え合いたい」という強い思いに触れ、地域のつながりは再構築できると確信しました。

地域の方々の想いの灯火が消えてしまう前に、今こそ想いを形にし、つないでいく活動が必要だと感じています。そのひとつとしてささえあいマップづくりが地域のたすけあいの輪を広げる一翼を担うことを期待し、今後さまざまな地域で助け合い、支え合いの輪が広がっていくことを願っています。（中川 理絵）

小神支部

「みなと坂ふれあいサロン」発会式が開催されました

小神地区の丘陵地、長崎港を一望できる新興団地みなと坂で新たに高齢者ふれあいサロン『みなと坂ふれあいサロン』が立ち上がり、4月12日（木）発会式が行われました。

このサロンは、約7年前に立ち上がったシニアクラブ『ほしの会』のメンバーを中心に、地区の高齢者が気軽に集える交流の場づくりを目的として新たに開始された取り組みです。

水の浦支部のサロン「レインホーフリッシュ」を見学しました。



式典後は健康講話と脳トレ体操を実施

発会式の様子

協立体制もあり、活動を開始するにあたって自治会長・発会式には、立ち上げに関わった関係機関も招待され、サロン代表の古川氏による開所の目的や今後の目指す姿が語られました。社協小神支部ではみなと坂ふれあいサロンの開設を皮切りに、小瀬戸地区においてもサロンが立ち上がるなど、活動が活発化しているようです。（竹内 亜梨紗）